

2026年9月27日

主日礼拝

礼拝讃美歌⇒256番（MK 姉）

『歌いつつ歩まん』

聖書⇒詩編 51 編 5～14 節（KT 姉）

『あなたに背いたことをわたしは知っています。
わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。

あなたに、あなたのみになわたしは罪を犯し／
御目に悪事と見られることをしました。

あなたの言われることは正しく／
あなたの裁きに誤りはありません。
わたしは咎のうちに産み落とされ／
母がわたしを身ごもったときも／
わたしは罪のうちにあったのです。

あなたは秘儀ではなくまことを望み／
秘術を排して知恵を悟らせてくださいます。
ヒソプの枝でわたしの罪を払ってください／

わたしが清くなるように。
わたしを洗ってください／
雪よりも白くなるように。

喜び祝う声を聞かせてください／
あなたによって砕かれたこの骨が喜び躍るように。

わたしの罪に御顔を向けず／
咎をことごとくぬぐってください。
神よ、わたしの内に清い心を創造し／
新しく確かな霊を授けてください。

御前からわたしを退けず／
あなたの聖なる霊を取り上げないでください。
御救いの喜びを再びわたしに味わわせ／
自由の霊によって支えてください。』

（祈り）

聖書⇒ヘブライ人への手紙 13 章 8 節 (KH 姉)

『イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です。』

礼拝讃美歌⇒254 番

『昨日も今日も永久に』

聖書⇒詩編 118 編 1~4、22~25 節 (ES 姉)

『恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

イスラエルは言え。慈しみはとこしえに。

アロンの家は言え。慈しみはとこしえに。

主を畏れる人は言え。慈しみはとこしえに。

家を建てる者の退けた石が／

隅の親石となった。

これは主の御業／

わたしたちの目には驚くべきこと。

今日こそ主の御業の日。

今日を喜び祝い、喜び躍ろう。

どうか主よ、わたしたちに救いを。

どうか主よ、わたしたちに栄えを。』

聖書⇒マタイによる福音書 21 章 42~43 節

『イエスは言われた。「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないのか。

『家を建てる者の捨てた石、／

これが隅の親石となった。

これは、主がなさったことで、／

わたしたちの目には不思議に見える。』

だから、言うておくが、神の国はあなたたちから取り上げられ、それにふさわしい実を結ぶ民族に与えられる。』

聖書⇒ペトロの手紙一 2 章 4~8a 節

『この主のもとに来なさい。主は、人々からは見捨てられたのですが、神にとっては選ばれた、尊い、生きた石なのです。あなたがた自身も生きた石として用いられ、霊的な家に造り上げられるようにしなさい。そして聖なる祭司となって神に喜ばれる霊的ないけにえを、イエス・キリストを通して献げなさい。聖書にこう書いてあるからです。

「見よ、わたしは、選ばれた尊いかなめ石を、／

シオンに置く。

これを信じる者は、決して失望することはない。」

従って、この石は、信じているあなたがたには掛けがえのないものですが、信じない者たちにとっては、／
「家を建てる者の捨てた石、／
これが隅の親石となった」
のであり、また、／
「つまずきの石、／
妨げの岩」
なのです。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒482 番 (KH 兄)
『貧しく老いたる』

《パン裂き》

聖書⇒ヨハネによる福音書 6 章 47~51 節 (KH 兄)

『はっきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている。わたしは命のパンである。あなたたちの先祖は荒野でマンナを食べたが、死んでしまった。しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。
わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。』

(式)

礼拝讃美歌⇒405 番
『愛する者を養うために』

《建徳》

聖書⇒ヨハネによる福音書 1 章 29, 34, 45, 49 節 (CN 兄)

『その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。

わたしはそれを見た。だから、この方こそ神の子であると証ししたのである。」

フィリポはナタナエルに出会って言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」

ナタナエルが、「どうしてわたしを知っておられるのですか」と言うと、イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 3 章 2a~2b 節

『ある夜、イエスのもとに来て言った。「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 6 章 14 節

『そこで、人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である」と言った。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 7 章 12、40~43 節

『群衆の間では、イエスのことがいろいろとささやかれていた。「良い人だ」と言う者もいれば、「いや、群衆を惑わしている」と言う者もいた。

この言葉を聞いて、群衆の中には、「この人は、本当にあの預言者だ」と言う者や、「この人はメシアだ」と言う者がいたが、このように言う者もいた。「メシアはガリラヤから出るだろうか。メシアはダビデの子孫で、ダビデのいた村ベツレヘムから出ると、聖書に書いてあるではないか。」こうして、イエスのことで群衆の間に対立が生じた。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 8 章 48 節

『ユダヤ人たちが、「あなたはサマリア人で悪霊に取りつかれていると、我々が言うのも当然ではないか」と言い返すと、』

聖書⇒ヨハネによる福音書 9 章 16~17、24、33 節

『ファリサイ派の人々の中には、「その人は、安息日を守らないから、神のもとから来た者ではない」と言う者もいれば、「どうして罪のある人間が、こんなしるしを行うことができるだろうか」と言う者もいた。こうして、彼らの間で意見が分かれた。そこで、人々は盲人であった人に再び言った。「目を開けてくれたということだが、いったい、お前はあの人をどう思うのか。」彼は「あの方は預言者です」と言った。

さて、ユダヤ人たちは、盲人であった人をもう一度呼び出して言った。「神の前で正直に答えなさい。わたしたちは、あの者が罪ある人間だと知っているのだ。」

あの方が神のもとから来られたのでなければ、何もおできにならなかったはずで』

聖書⇒ヨハネによる福音書 10 章 19~21、33 節

『この話をめぐって、ユダヤ人たちの間にまた対立が生じた。多くのユダヤ人は言った。「彼は悪霊に取りつかれて、気が変になっている。なぜ、あなたたちは彼の言うことに耳を貸すのか。」ほかの者たちは言った。「悪霊に取りつかれた者は、こういうことは言えない。悪霊に盲人の目が開けられようか。」

ユダヤ人たちは答えた。「善い業のことで、石で打ち殺すのではない。神を冒瀆したからだ。あなたは、人間なのに、自分を神としているからだ。』

聖書⇒マルコによる福音書 8 章 27~29b 節

『イエスは、弟子たちとフィリポ・カイサリア地方の方々の方々の村にお出かけになった。その途中、弟子たちに、「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」と言われた。弟子たちは言った。『洗礼者ヨハネだ』とっています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」そこでイエスがお尋ねになった。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。』

聖書⇒使徒言行録 10 章 36 節

『——この方こそ、すべての人の主です——』

聖書⇒ルカによる福音書 9 章 23 節 (KH 兄)

『それから、イエスは皆に言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 2 章 19~20 節

『わたしは神に対して生きるために、律法に対しては律法によって死んだのです。わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。』

聖書⇒マタイによる福音書 11 章 28~29 節

『疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。』

礼拝讃美歌⇒481 番 (KH 兄)

『ああ嬉しわが身も』

《建德要旨》